



2022年3月29日

各 位

会 社 名 株式会社オーハシテクニカ
代 表 者 代表取締役社長 柴崎 衛
(コード番号7628 東証第一部)
問合せ責任者 取締役経営企画部長 中村 佳二
(TEL: 03-5404-4420)

「中期経営計画～Mission2025～」の策定に関するお知らせ

当社は、2022年度を初年度とする「中期経営計画～Mission2025～」を策定いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

1. 本計画策定の背景

当社は、2021年4月に創業70周年を迎えました。これを機に、当社グループがお客様に対して果たすべき使命を改めて定義し、当社グループの目指すべき姿を「ミッション・ステートメント」として制定いたしました。

〈オーハシテクニカグループ ミッション・ステートメント〉

**もっといい車を作ろうとしている人に
もっといい部品をお届けします
車づくりに欠かせない会社を目指して**

当社グループの事業分野であります自動車業界におきましては、電動化・情報化・自動化といった大変革期を迎えており、更には新型コロナウイルス感染症拡大による世界規模での景気後退やCO2排出削減(カーボンニュートラル)に向けた課題への対応等、取り巻く環境は大きく変化しております。

このような状況下、当社グループはミッション・ステートメントを追求する事業活動を推進し、当社グループの企業価値の更なる向上と持続的な成長を実現させていくため、今般、「中期経営計画～Mission2025～」を策定いたしました。

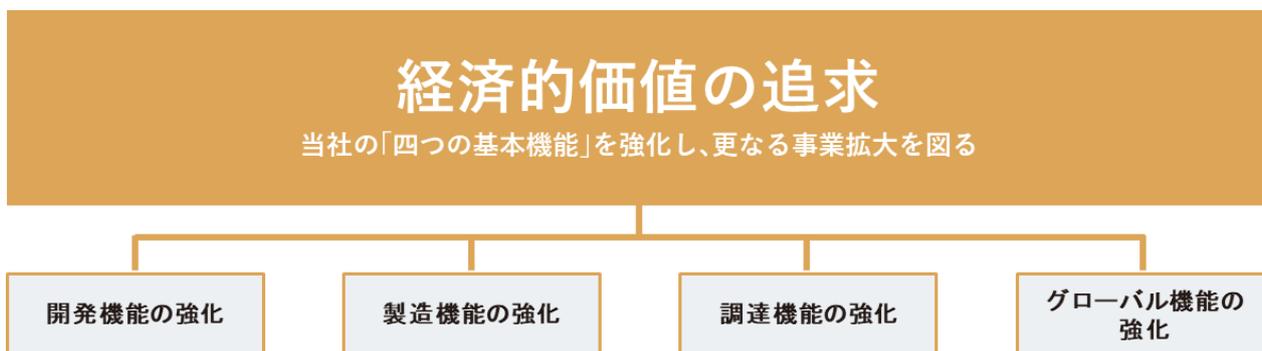
当社グループは、今後、本計画を着実に実行し、お客さまや株主さまをはじめとした全てのステークホルダーの皆さまに信頼され、ご評価いただける企業となるため、全社員一丸となって努力してまいります。

2. 中期経営計画「Mission2025」の基本方針

**当社グループは『経済的価値』と『社会的価値』の両立により
「ミッション・ステートメント」の実現を目指す**

● 「Mission2025」 達成のための具体的施策

(1) 経済的価値の追求



(2) 社会的価値の創造



3. 定量的目標

・業績目標 (2025 年度目標)

連結売上高	45,000 百万円
連結営業利益	4,150 百万円

・財務目標 (2022 年度～2025 年度目標)

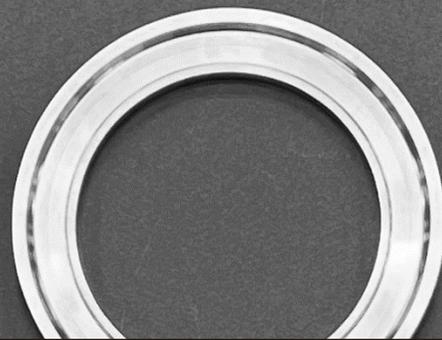
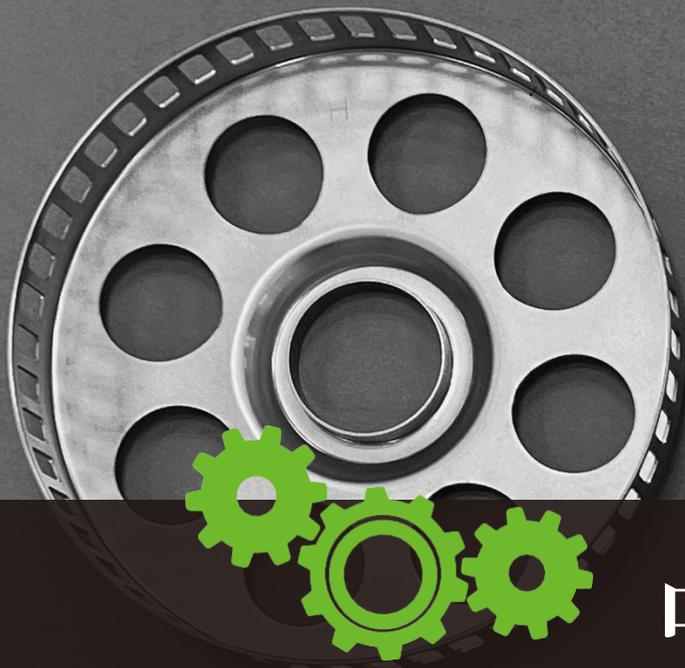
ROE	8%以上
配当性向	35%以上

・設備投資・研究開発費・ESG関連投資計画 (2022 年度～2025 年度目標)

設備投資	合計 6,000 百万円
研究開発費	合計 1,000 百万円
ESG関連投資	合計 1,000 百万円

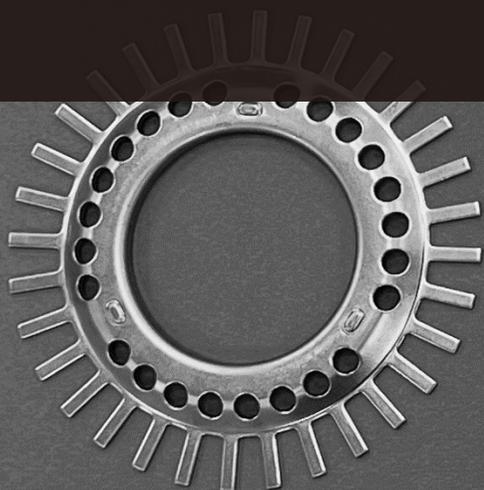
本中期経営計画の詳細につきましては、添付資料をご参照ください。

以上



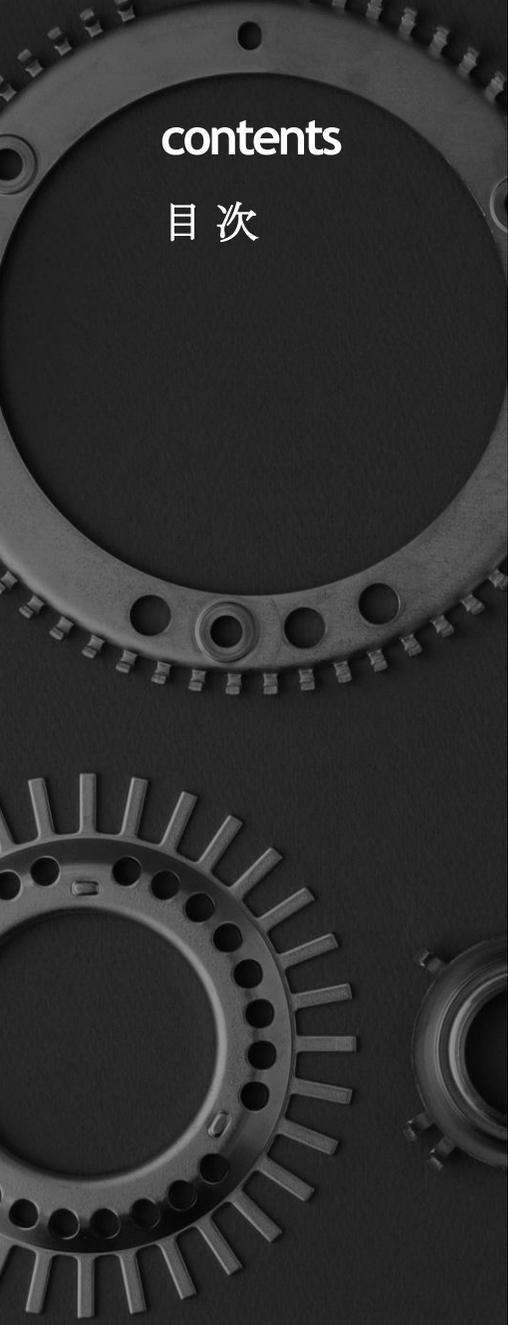
中期経営計画 ~Mission2025~

2022年度～2025年度



2022年3月
株式会社オーハシテクニカ
経営企画部





contents

目次

I. 3か年の振り返り（2019年度～2021年度）

1. 業績総括
2. 事業戦略総括
 - 2-1 開発機能の強化(競争力強化)
 - 2-2 製造機能の強化(競争力の強化と生産対応力の拡大)
 - 2-3 戦略的調達活動の強化
 - 2-4 グローバル機能の強化
 - 2-5 企業価値向上への取組み
 - (1)ESGを重視した事業活動(主な成果)
 - (2)株主還元実績

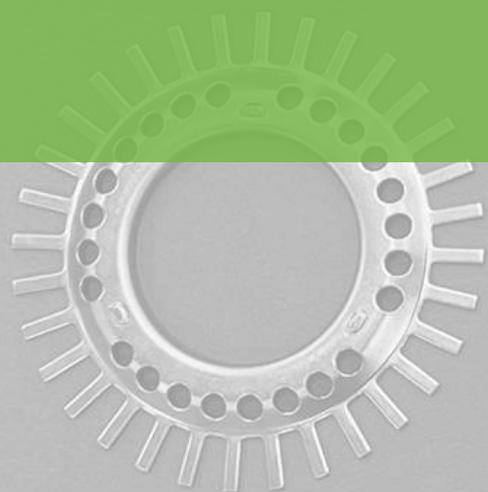
II. 新 中期経営計画（2022年度～2025年度）

1. 『Ohashi Mission Statement』
2. 中期経営計画「Mission2025」の基本方針
3. 価値創造・両立イメージ
4. 「Mission2025」達成のための具体的施策
 - 4-1 経済的価値追求のため、当社の「四つの基本機能」を強化し更なる事業拡大を図る
 - (1)開発機能の強化
 - (2)製造機能の強化
 - (3)調達機能の強化
 - (4)グローバル機能の強化
 - 4-2 社会的価値創造のため、ESG経営を推進し企業価値向上とサステナブル社会の実現に貢献する
 - (1)地球環境課題への対応
 - (2)社会的課題への対応
 - (3)ガバナンス強化への対応
 - (4)ステークホルダーへの還元 目標とする経営指標(ROE・ROA・配当性向・DOE)
5. 定量的目標
 - 5-1 業績目標
 - (1)2025年度 連結目標
 - (2)地域セグメント別売上高目標
 - 5-2 設備投資・研究開発費・ESG関連投資 計画



I. 3か年の振り返り (2019年度～2021年度)

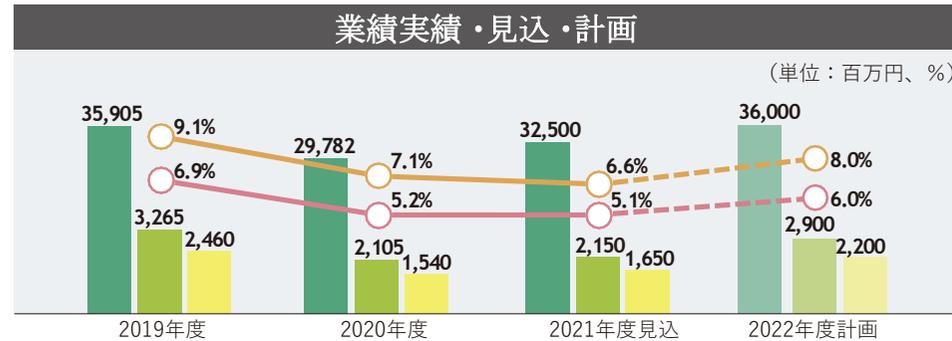
1. 業績総括
2. 事業戦略総括





I.3か年の振り返り(2019年度～2021年度)

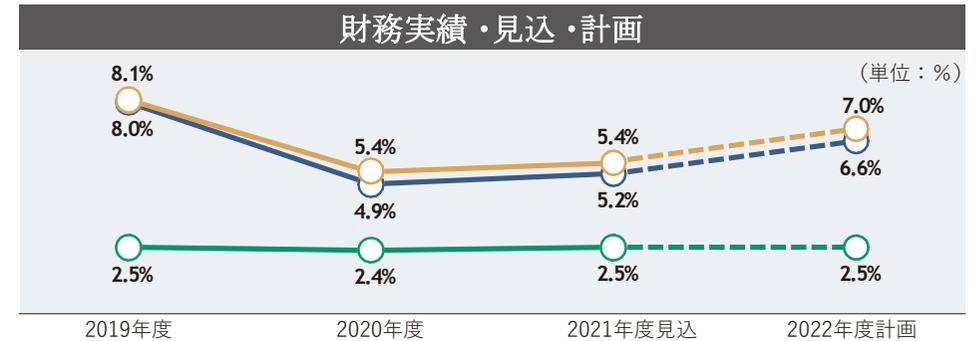
1. 業績総括



業績推移 (2019年度・2020年度実績～2021年度見込・2022年度計画)

	2019年度	2020年度	2021年度見込	2022年度計画
連結売上高	35,905	29,782	32,500	36,000
連結営業利益	3,265	2,105	2,150	2,900
連結当期純利益	2,460	1,540	1,650	2,200
営業利益率	9.1%	7.1%	6.6%	8.0%
当期純利益率	6.9%	5.2%	5.1%	6.0%

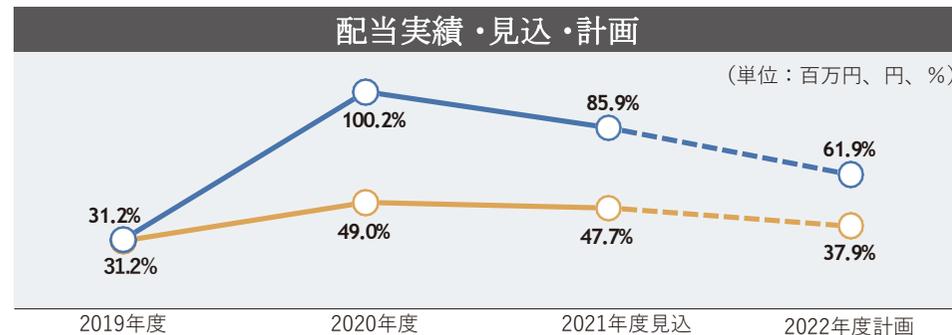
※計画の数字は業績予想値ではありません。



財務推移 (2019年度・2020年度実績～2021年度見込・2022年度計画)

	2019年度	2020年度	2021年度見込	2022年度計画
ROE	8.0%	4.9%	5.2%	6.6%
ROA	8.1%	5.4%	5.4%	7.0%
DOE	2.5%	2.4%	2.5%	2.5%

※ROE (自己資本利益率)、ROA (総資産利益率)、DOE (株式資本配当率)



配当推移 (2019年度・2020年度実績～2021年度見込・2022年計画)

	2019年度	2020年度	2021年度見込	2022年度計画
配当性向	31.2%	49.0%	47.7%	37.9%
総還元性向	31.2%	100.2%	85.9%	61.9%
一株当り配当	52円	52円	57円	62円
自己株取得	0百万円	795百万円	620百万円	525百万円

外部環境

- 2019年度 米中貿易摩擦の長期化による両国経済の減速と英国のEU離脱問題、欧州における景気の低迷
- 2020年度 新型コロナウイルス感染症の急速な拡大による外出規制や経済活動の制限
- 2021年度 世界的な半導体不足の影響や東南アジアの新型コロナウイルスの再拡大、海上物流の混乱及び鉄鋼材料の高騰等の顕在化



I.3か年の振り返り(2019年度～2021年度)

2. 事業戦略総括

2-1 開発機能の強化 (競争力強化)

(1)既存の当社独自技術 (圧入プロジェクション接合) の進化

①自動車の電動化や自動運転機能に対応する高強度接合技術の開発

・アクチュエーター(作動機構)関連部品の高トルクニーズに対応する高強度接合技術の開発 → 採用決定 **2021年**

・EV車用部品のコンパクト化ニーズに対応する薄板接合技術の開発 → 採用決定 **2021年**

②大口径・高強度接合技術の開発 → 開発完了・大型溶接機導入決定 **2021年**

(2)新たな加工技術の開発

①切削セレーションシャフトの冷間圧造化による原価低減 → 完了

②焼結ギア部品の工法変更 (冷間圧造、精密プレス) による高強度化 → 推進中

③アルミの板鍛造技術の開発 → 推進中

④パワーステアリング部品の新形状冷間鍛造部品 → 開発完了・量産開始 **2019年**





I.3か年の振り返り(2019年度～2021年度)

2. 事業戦略総括

2-2 製造機能の強化 (競争力の強化と生産対応力の拡大)

(1) 日本

- ①三重県鈴鹿市の新工場本格稼働 (工場床面積 約2,000坪) 第1期工場(2017年夏完成)
- ②効率化推進のため切削加工事業の統合 (仙台工場を鈴鹿工場に統合) 2020年
- ③切削加工事業統合に合わせ、最新設備に入替・設置 2020年

(2) 米州

- ①精密切削加工、精密プレス加工体制の確立 (設備の新設・増設) 2018年～2021年

(3) 中国

- ①製造工場の拡張 (工場床面積630坪拡大) 2021年
- ②大型圧造設備の新設を含む新規生産ラインの増設 2021年
- ③精密プレス加工において、プレス機増設、ロボット化による自動化推進 2019年

(4) アセアン

- ①最新設備による精密切削加工ラインの増設による生産能力拡大と生産効率改善 2019年～2020年



オーハシ技研工業株式会社 鈴鹿第1工場



広州大中精密件有限公司 中国工場



1.3か年の振り返り(2019年度～2021年度)

2. 事業戦略総括

2-3 戦略的調達活動の強化

(1) 高度な技術力を有する調達先との連携強化

- ① 持分法適用関連会社2社において生産能力拡大のための製造ライン増設 2019年～2021年
- ② 主要調達先数社と新規設備投資を前提とした受注活動を推進、複数の新規案件成約 2020年
- ③ 主要調達先との協業による受注活動及び開発案件の推進 ▶ 推進中

(2) 新たな調達先の開拓

- ① 高度な精密プレス技術をもつ新規メーカーと協業開始 2021年
▶ (同社の技術を活かした) 新規受注内定
- ② 日本での調達ネットワークのグローバル展開(全期間) 2020年
(アメリカ・メキシコ・中国)
- ③ LCC調達機能強化のため、台湾での優良メーカーの発掘(全期間)



株式会社テーケー



株式会社ナカヒョウ



1.3か年の振り返り(2019年度～2021年度)

2. 事業戦略総括

2-4 グローバル機能の強化

(1) 既存拠点の機能強化とグローバル対応力の向上

- ①日本・北米・中国・タイの4極において、圧造・プレス・切削の3つの加工技術に対応できる
グローバル生産体制の構築を推進中
- ②タイ生産品の北米供給を開始
- ③グローバル供給機能による世界同時受注の獲得

【日本】
株式会社オーハシテクニカ



オーハシ技研工業株式会社



株式会社
オーハシロジスティクス



【米州】
OHASHI TECHNICA U.S.A., INC.



OHASHI TECHNICA U.S.A.
MANUFACTURING, INC.



OHASHI TECHNICA
MEXICO, S.A. DE C.V.



【中国】
大橋精密件（上海）有限公司 大橋精密件製造（広州）有限公司



広州大中精密件有限公司



大橋精密電子（上海）有限公司



【アセアン】
OHASHI TECHNICA
(THAILAND) CO., LTD.



OHASHI SATO
(THAILAND) CO., LTD.



【欧州】
OHASHI TECHNICA UK, LTD.



【台湾】
台灣大橋精密股份有限公司





1.3か年の振り返り(2019年度～2021年度)

2. 事業戦略総括

2-5 企業価値向上への取組み

(1) ESGを重視した事業活動(主な成果)

E (環境)

- 自動車の電動化・自動化に対応した部品加工技術の開発と提案
 - ▶ 当社独自加工技術を活用した部品の領域が着実に拡大
- 社有車のHV・PHVへの切り替え
 - ▶ 約60%の切り替え完了
 - ▶ 2025年までに100%切り替え予定
- 社内ITインフラの整備による省資源化
 - ▶ 電子稟議システム、Web会議システムを導入し、ペーパーレス化が進展
- CO2排出削減に向けた取組み
 - ▶ 排出量把握(SCOPE1・2)および削減計画の策定が完了

S (社会)

- 職場環境の整備
 - ▶ 社員有給休暇 年間最低6日の完全実施
- コロナ禍にも対応した役職員に対する教育制度の構築
 - ▶ 社内Web研修、通信教育の導入
- 災害支援活動
 - ▶ 義援金拠出(過去3年の実績)
 - 国内: 3件・7百万円
 - 海外: 1件・2.4百万円
- 地域貢献活動
 - ▶ 自治体主催イベント(マラソン、地域クリーン活動等)への協賛とボランティア参加
 - ▶ 取引先企業のスポーツ振興、地域貢献活動への協賛
- 人権、コンプライアンスの重視
 - ▶ 「オーハシテクニカグループ人権方針」の制定、ハラスメント防止体制の拡充

G (ガバナンス)

- 「指名・報酬委員会」の設置
- 独立役員増員(民間企業出身の女性社外取締役の選任)
- 「ESG推進会議」、「ESG推進室」、「オーハシテクニカグループESGポリシー」の新設
- 株主総会招集通知の早期発送とWeb開示
- 「決算短信」「株主総会招集通知」の英訳版の開示
- インターネットによる議決権行使の仕組みを導入
- 政策保有株の縮減(過去3年実績)
 - ▶ ▲5銘柄・▲253百万円
- 2022年4月の東証市場再編に関しプライム市場への移行を選択
 - ▶ 更なるガバナンス強化に注力



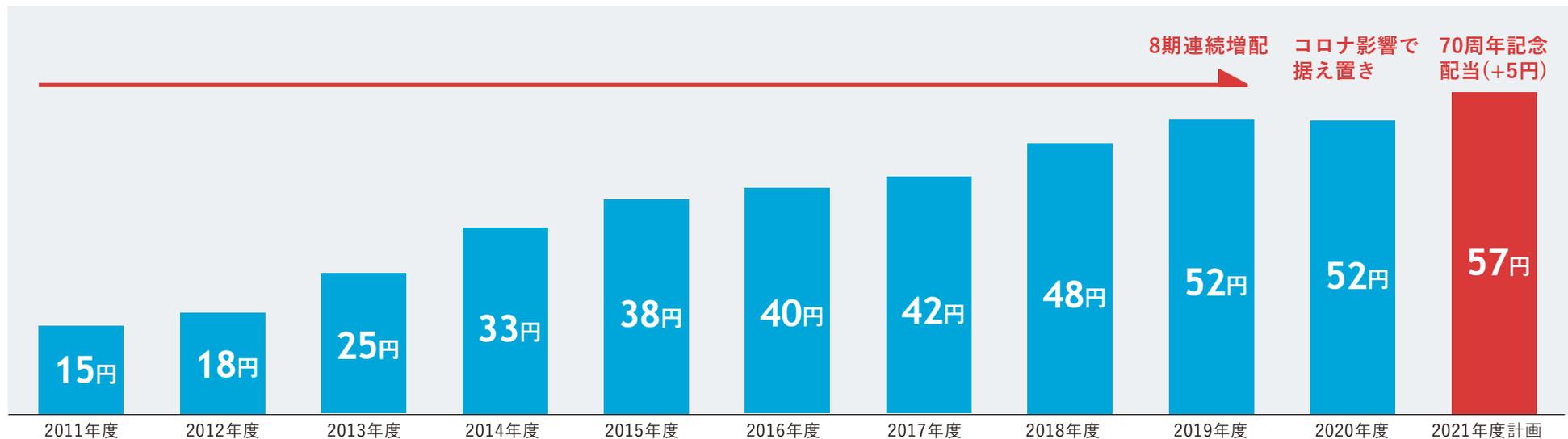
1.3か年の振り返り(2019年度～2021年度)

2. 事業戦略総括

2-5 企業価値向上への取組み

(2)株主還元実績

① 1株当たり配当金実績・計画



※1株当たり配当金実績 2011年度@ ¥15 ⇒ 2021年度予定@ ¥57 (10年間で3.8倍、2021年度配当性向見込47.7%)

② 自己株式の取得・消却

・資本効率の向上と株主の皆様への一層の還元を念頭に置き、財務状況等を総合的に勘案し継続実施

(自己株式取得) 2019年～2021年4月 合計 700,000株 1,061百万円(4回)

2021年11月～ 700,000株 1,050百万円(実行中)

(自己株式消却)2020年～2021年 2,061,080株(2回)

Ⅱ 新中期経営計画 (2022年度～2025年度)

1. 『Ohashi Mission Statement』
2. 中期経営計画「Mission2025」基本方針
3. 価値創造・両立イメージ
4. 「Mission2025」達成のための具体的施策
 - 4-1 経済的価値の追求のため、当社の「四つの基本機能」を強化し更なる事業拡大を図る
 - 4-2 社会的価値の創造のため、ESG経営を推進し企業価値向上とサステナブル社会の実現に貢献する
5. 定量的目標
 - 5-1 業績目標
 - 5-2 設備投資・研究開発費・ESG関連投資 計画



II.新 中期経営計画(2022年度～2025年度)

1. 『Ohashi Mission Statement』

当社グループを支えてくださった全ての方々への「感謝」と
「車づくりに欠かせない会社を目指す」という「決意」を胸に
当社グループのミッション・ステートメントを定めました

もっといい車を作ろうとしている人に
もっといい部品をお届けします
**車づくりに欠かせない
会社を目指して**



II.新 中期経営計画(2022年度～2025年度)

2. 中期経営計画「Mission2025」基本方針

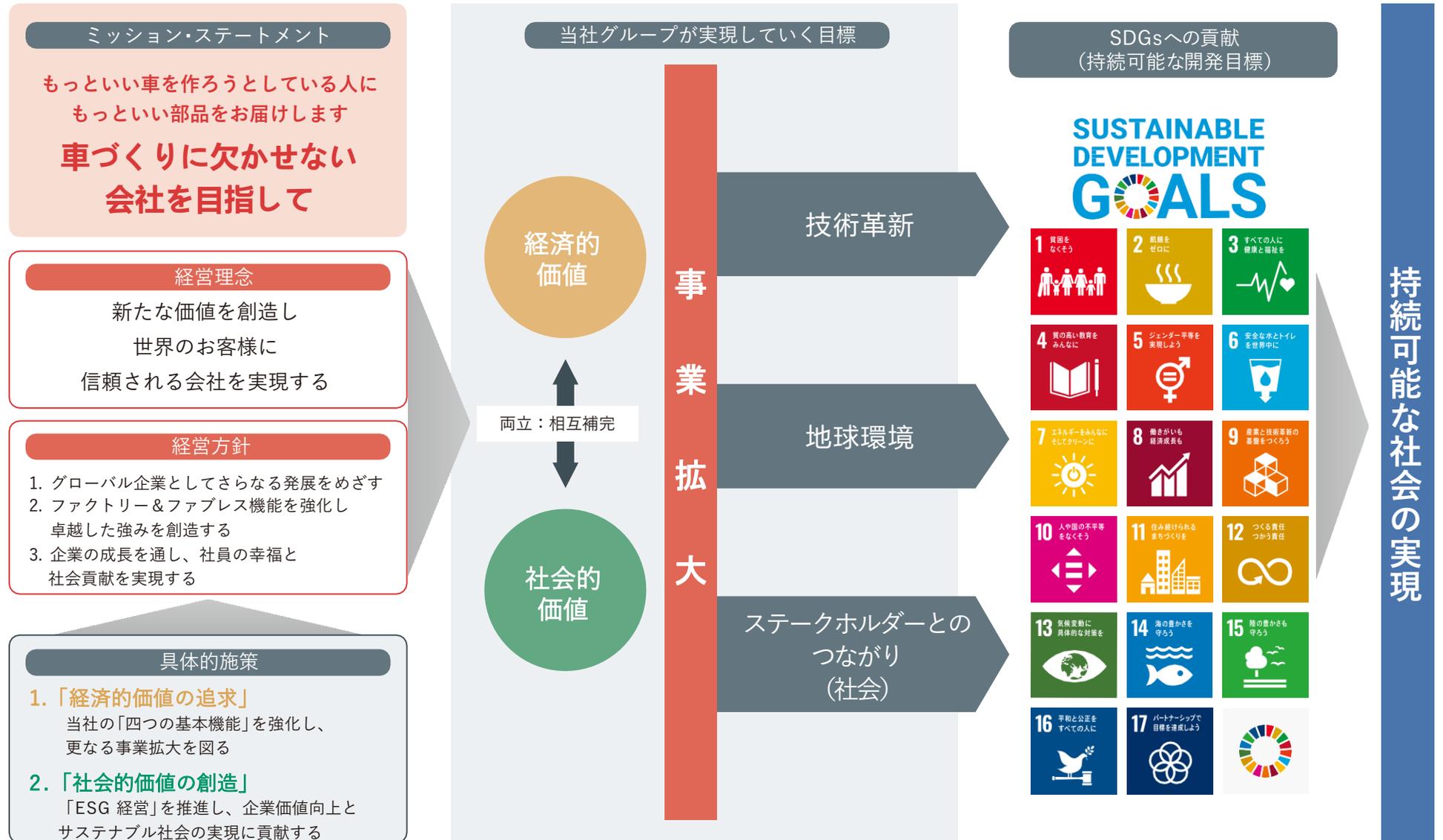
当社グループは『経済的価値』と『社会的価値』の両立により「ミッション・ステートメント」の実現を目指す





II. 新 中期経営計画(2022年度～2025年度)

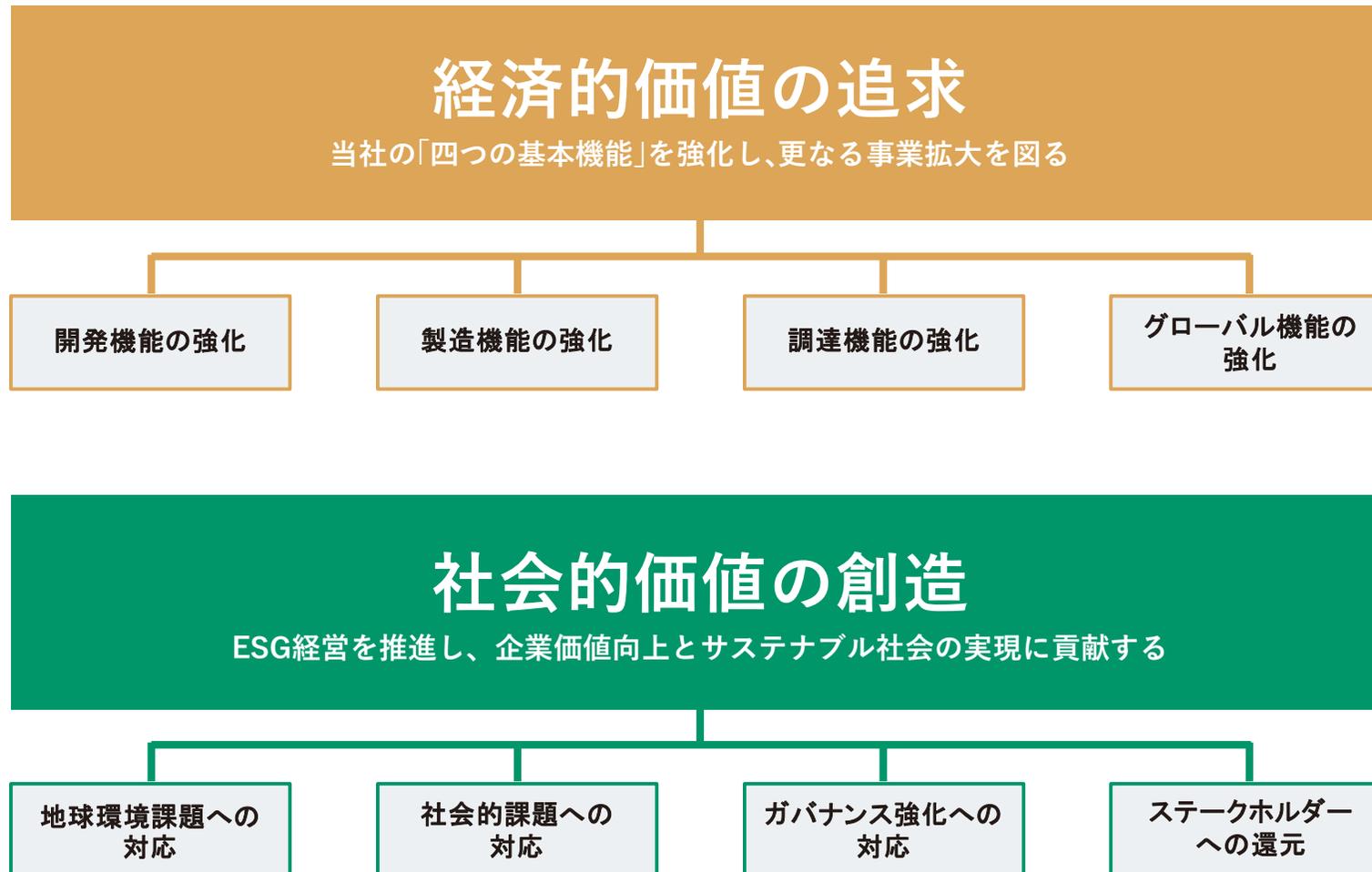
3. 価値創造・両立 イメージ





II.新 中期経営計画(2022年度～2025年度)

4. 「Mission2025」達成のための具体的施策





II.新 中期経営計画(2022年度～2025年度)

4. 「Mission2025」達成のための具体的施策

4-1 経済的価値の追求のため、当社の「四つの基本機能」を強化し更なる事業拡大を図る

(1) 開発機能の強化

① 幅広いマーケティング活動に基づき、新たな加工技術を開発し市場創造型ビジネスを展開する

- a. 次世代自動車（電動化・自動運転・燃料電池車等）の市場ニーズに対応する加工技術の開発
- b. 環境課題（カーボンニュートラル等）に対応する加工技術の開発

② 既存の当社独自技術の進化により、市場地位の向上を図る

- a. 圧入プロジェクション接合技術の対応領域拡大の為の更なる進化活動（大口径接合・高強度接合等）
- b. ギア、スプライン関連部品の冷間鍛造技術、圧造技術の進化による切削レス加工の推進





II.新 中期経営計画(2022年度～2025年度)

4. 「Mission2025」達成のための具体的施策

4-1 経済的価値の追求のため、当社の「四つの基本機能」を強化し更なる事業拡大を図る

(2) 製造機能の強化

① 積極的な設備投資による生産対応力の拡大により、競争力の強化を図る

- a. オーハシグループ内製率拡大の為の設備投資計画の推進
- b. 調達先の生産能力拡大に積極的に協業・関与し、生産体制の強化・整備を推進

② 技術力の向上を図り、高い生産性を実現する

- a. 競争力強化の為の、生産技術の向上と自動化・省人化の追求
- b. 生産体制整備の為の、人的資産投資の積極的な実行（製造関連人員の採用等）





II.新 中期経営計画(2022年度～2025年度)

4. 「Mission2025」達成のための具体的施策

4-1 経済的価値の追求のため、当社の「四つの基本機能」を強化し更なる事業拡大を図る

(3) 調達機能の強化

① 主要調達先との関係強化により、新たなファブレス機能を創造する

- a. 新たな資本提携・M&Aの検討と、その実現に向けた協議・条件整備の推進
- b. 主要調達先との積極的な設備投資の協業・推進
- c. 共同特許の出願を念頭に置いた独自加工技術の共同開発の推進

② 新たな調達先を積極的に開拓する

- a. 新たな強みの構築と弱みの補完に資する調達先の発掘活動の推進
- b. 事業継続計画（BCP）の為の、供給ネットワークの強化・拡充





II.新 中期経営計画(2022年度～2025年度)

4. 「Mission2025」達成のための具体的施策

4-1 経済的価値の追求のため、当社の「四つの基本機能」を強化し更なる事業拡大を図る

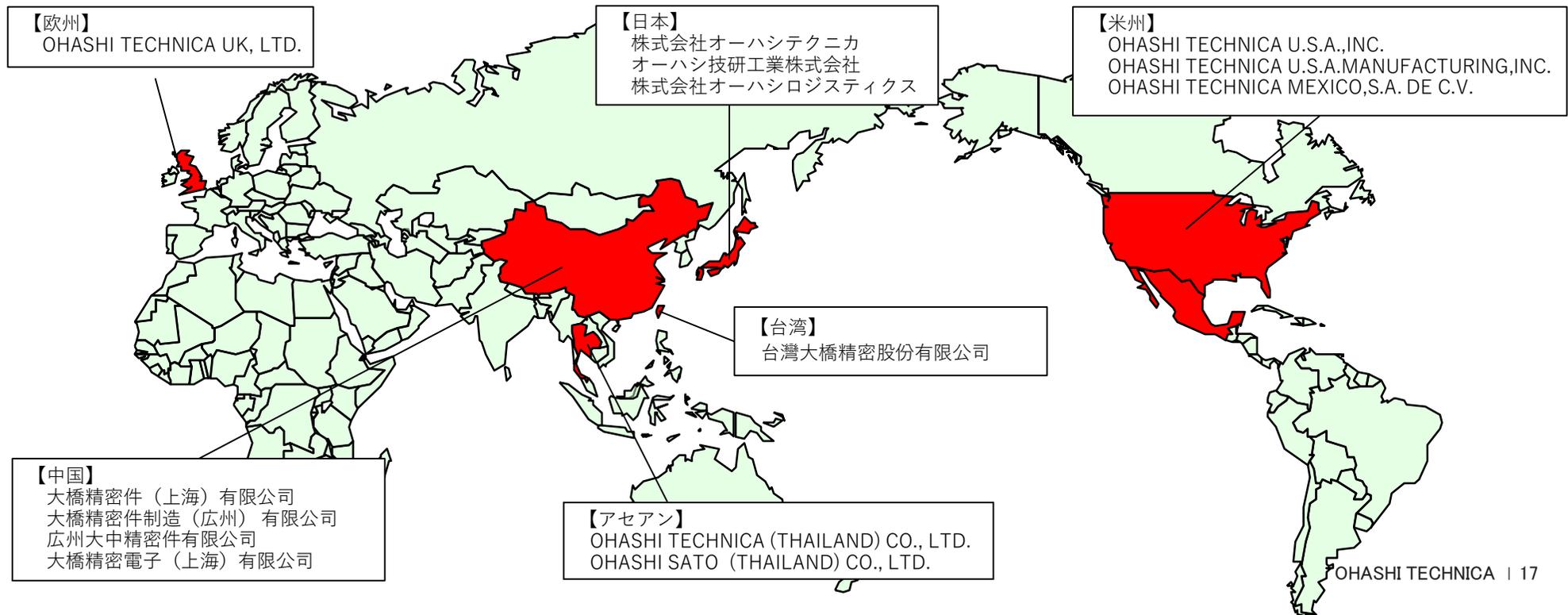
(4)グローバル機能の強化

① グローバルファクトリー機能を強化する

a.日本、北米、中国、タイの4極における圧造・プレス・切削の3つの加工技術に対応できる生産体制の確立

② 当社のネットワークを活かしたグローバル部品供給活動を推進する

a.顧客のグローバル生産に対応した世界ベストQCD体制の確立





II.新 中期経営計画(2022年度～2025年度)

4. 「Mission2025」達成のための具体的施策

4-2 社会的価値の創造のため、ESG経営を推進し企業価値向上とサステナブル社会の実現に貢献する

(1) 地球環境課題への対応

重要課題 (マテリアリティ)	個別課題	具体的な取組み	関連するSDGs
気候変動への対応 (CO2排出削減)	2050年カーボンニュートラル 実現にむけた、 CO2排出削減活動の推進	○目標値 (2018年度基準) 「2030年度 CO2 排出量50%削減」 「2050年度 カーボンニュートラルの実現」 ・生産拠点における再生可能エネルギーの利用拡大 (太陽光発電設備の導入や、外部購入電力の導入) ・社用車の電動車 (EV・HV車等) への入れ替え ・LED照明器具の利用拡大	 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに 13 気候変動に 具体的な対策を 15 陸の豊かさも 守ろう
	環境保全に資する 新たな加工技術の開発	・EV車、FCV車、HV車等に使用される部品に 関わる加工技術の開発に更に注力 ・高強度化、高精度化、小型軽量化を実現する 独自加工技術 (圧入プロジェクション技術) の 適用領域の拡大 ・切削レスを実現するプレス加工技術・圧造加工 技術等の進化活動	 9 産業と技術革新の 基盤をつくらう 13 気候変動に 具体的な対策を 17 パートナシップで 目標を達成しよう
	環境課題解決に向けた 調達先様との協業	・調達先様におけるCO2排出量の把握と削減に 向けた積極的な啓発・支援活動 (SCOPE3対 応) ・調達先様における再生可能エネルギー導入、 製造工程の脱炭素化、輸送効率化、 省エネルギー化などの促進活動	 12 つくる責任 つかう責任 13 気候変動に 具体的な対策を 17 パートナシップで 目標を達成しよう



II.新 中期経営計画(2022年度～2025年度)

4. 「Mission2025」達成のための具体的施策

4-2 社会的価値の創造のため、ESG経営を推進し企業価値向上とサステナブル社会の実現に貢献する

(2) 社会的課題への対応

重要課題 (マテリアリティ)	個別課題	具体的な取組み	関連するSDGs
多様な人財が 能力を発揮できる 働きがいのある 職場の実現	能力・成果の公正な評価と 評価に見合う処遇の実施	<ul style="list-style-type: none"> 人事制度・評価制度の再構築 報酬体系の見直し 株式報酬制度の導入検討 	
	ダイバーシティの推進	<ul style="list-style-type: none"> 性別・年齢・経験等の属性に関わらない職場づくり ⇒中核人財登用における多様性の確保、 シニア人財雇用（定年延長）や 障がい者雇用の推進、職場環境の整備、 働き方改革の推進等 	
	役職員の成長サポート 人財投資	<ul style="list-style-type: none"> 経営人財の育成、次世代管理職の育成、専門性の 向上、ITスキルなど新たな時代の変化に対応 できる能力の開発を図るための、 教育・研修プログラムのレベルアップ 	
持続可能な コミュニティの実現	社会貢献活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 地域貢献活動の維持・拡大 スポーツ振興に関わる支援活動の継続 災害や福祉・医療関連等に対する支援活動の継続 	



II.新 中期経営計画(2022年度～2025年度)

4. 「Mission2025」達成のための具体的施策

4-2 社会的価値の創造のため、ESG経営を推進し企業価値向上とサステナブル社会の実現に貢献する

(3)ガバナンス強化への対応

重要課題 (マテリアリティ)	個別課題	具体的な取組み	関連するSDGs
コーポレート・ ガバナンスの強化	取締役会の実効性向上	<ul style="list-style-type: none"> 知識・経験・能力のバランスを考慮した取締役会を構成 ⇒スキルマトリックスの活用 取締役を対象としたアンケート実施による取締役会の実効性の分析・評価と、更なる改善に向けた取り組み 	 
	コンプライアンスの徹底	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な教育・研修の継続 「重大な法令違反件数ゼロ」の継続 	
	事業継続計画(BCP)の レベルアップ	<ul style="list-style-type: none"> 当社BCPの更なる改善のための継続的な見直し 調達先様を含めたBCP体制の更なる強化 	
ステークホルダー との関係強化	適切な情報開示	<ul style="list-style-type: none"> 適時適切な情報開示の継続 	 
	投資家との 積極的対話の継続	<ul style="list-style-type: none"> 株主様、投資家様との対話を深めるためのインフラ整備や開示資料のさらなる改善 	
	調達先様との強固な 関係構築 (共存共栄の取り組み)	<ul style="list-style-type: none"> 下請法の趣旨を踏まえた、調達先様への代金支払手段の更なる適正化 調達先様のESG経営に向けた支援 	



II.新 中期経営計画(2022年度～2025年度)

4. 「Mission2025」達成のための具体的施策

4-2 社会的価値の創造のため、ESG経営を推進し企業価値向上とサステナブル社会の実現に貢献する

(4)ステークホルダーへの還元 目標とする経営指標ROE・ROA・配当性向・DOE)

① 効率的な経営と強固な財務基盤の維持

- a.ROE（自己資本当期純利益率） 目標 8%以上（コロナ影響で低下した水準の回復）
- b.ROA（総資産経常利益率） 目標 10%以上（コロナ影響で低下した水準の回復）

② 安定した株主還元継続

- a.配当性向 目標 35%以上（従来目標30%以上から引き上げ）
- b.DOE（純資産配当率） 目標 2.5%以上（従来目標2.3%以上から引き上げ）
- c.財務状況等を総合的に勘案し、適切な時期・規模での自己株式取得も継続検討



Mission2025

計画・目標

2022年度～2025年度

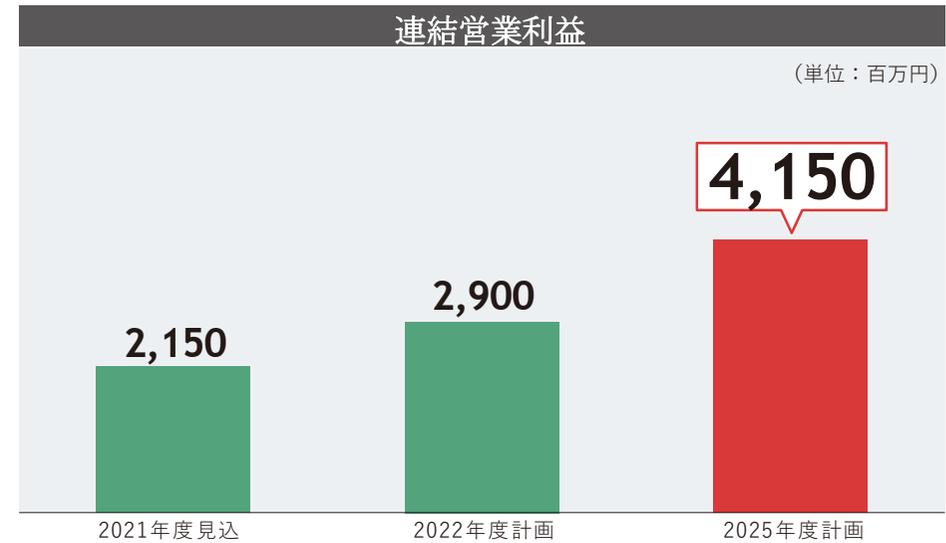
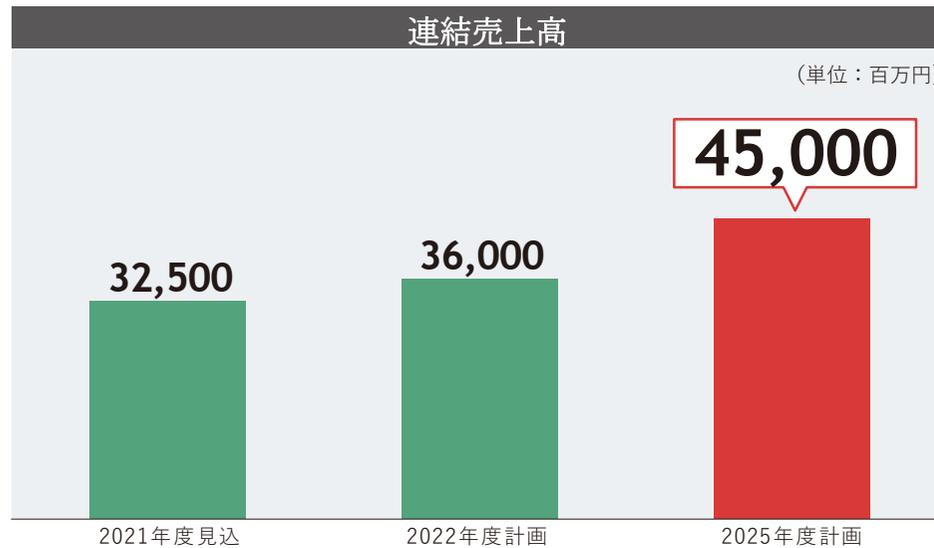


II.新 中期経営計画(2022年度～2025年度)

5. 定量的目標

5-1 業績目標

①2025連結目標



(単位：百万円、%)

	2021年度見込	2022年度計画	2025年度計画
売上高	32,500	36,000	45,000
営業利益	2,150	2,900	4,150
営業利益率	6.6	8.0	9.2
経常利益	2,350	3,100	4,350
親会社に帰属する 当期純利益	1,650	2,200	3,100

※計画の数字は業績予想値ではありません

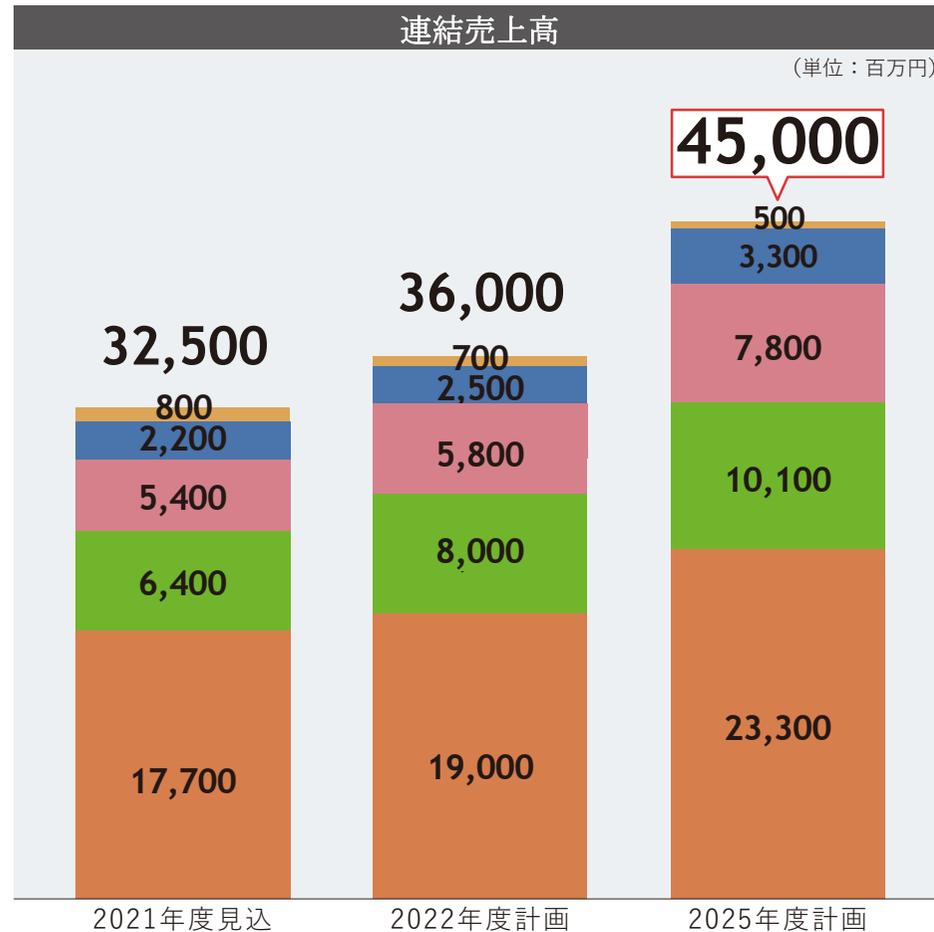


II. 新 中期経営計画(2022年度～2025年度)

5. 定量的目標

5-1 業績目標

②地域セグメント別売上高目標



(単位：百万円)

	2021年度 見込	2022年度		2025年度	
		計画	前期比	計画	前期比
連結売上高	32,500	36,000	110%	45,000	107%
日本	17,700	19,000	106%	23,300	105%
米州	6,400	8,000	121%	10,100	106%
中国	5,400	5,800	121%	7,800	115%
アセアン	2,200	2,500	103%	3,300	106%
欧州	800	700	80%	500	100%

※計画の数字は業績予想値ではありません

為替レート	2021年度	2022年度	2025年度
ドル	109.80	110.00	108.00
元	17.03	17.10	16.70
バーツ	3.44	3.40	3.30
ポンド	151.07	149.00	148.00
メキシコペソ	5.42	5.20	5.30
台湾ドル	3.92	3.90	3.80



II.新 中期経営計画(2022年度～2025年度)

5. 定量的目標

5-2 設備投資・研究開発費・ESG関連投資 計画

《設備投資》 2022年度～2025年度 合計 **6,000**百万円

主な計画	
日本	・オーハシ技研工業株式会社 鈴鹿第二工場 新築 ・鍛造設備（新規・更新）
米国	・工場・事務所 改築 ・切削・プレス設備（新規）
中国	・圧造・プレス設備（新規・更新）
タイ	・圧造・切削設備（新規・更新）

《研究開発費》 2022年度～2025年度 合計 **1,000**百万円

主な計画	
①次世代自動車（電動化・自動運転・燃料電池車等）の市場ニーズに対応する加工技術開発	
②環境課題（カーボンニュートラル等）に対応する加工技術開発	
③既存の当社独自技術の進化活動 ・圧入プロジェクション接合技術の対応領域・拡大（大口径接合・高強度接合等） ・冷間鍛造・圧造技術の進化活動	

《ESG関連投資》 2022年度～2025年度 合計 **1,000**百万円

主な計画	
①カーボンニュートラル目標達成に向けた投資（太陽光発電設備・LED照明への入替・社用車の電動化）	
②人材投資（制度改革・ダイバーシティ推進・教育・研修プログラム）	
③調達先のESG経営支援	
④社会貢献活動	

資料中の目標数値は業績予想値ではありません。
また、資料中の将来に係わる一切の記述内容は、
現時点で入手可能な情報に基づく当社の判断によるものですが、
既知・未知のリスクや不確実な要素が含まれています。
さまざまな要因の変化により、実際の結果は、
これら記述内容と大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

株式会社オーハシテクニカ